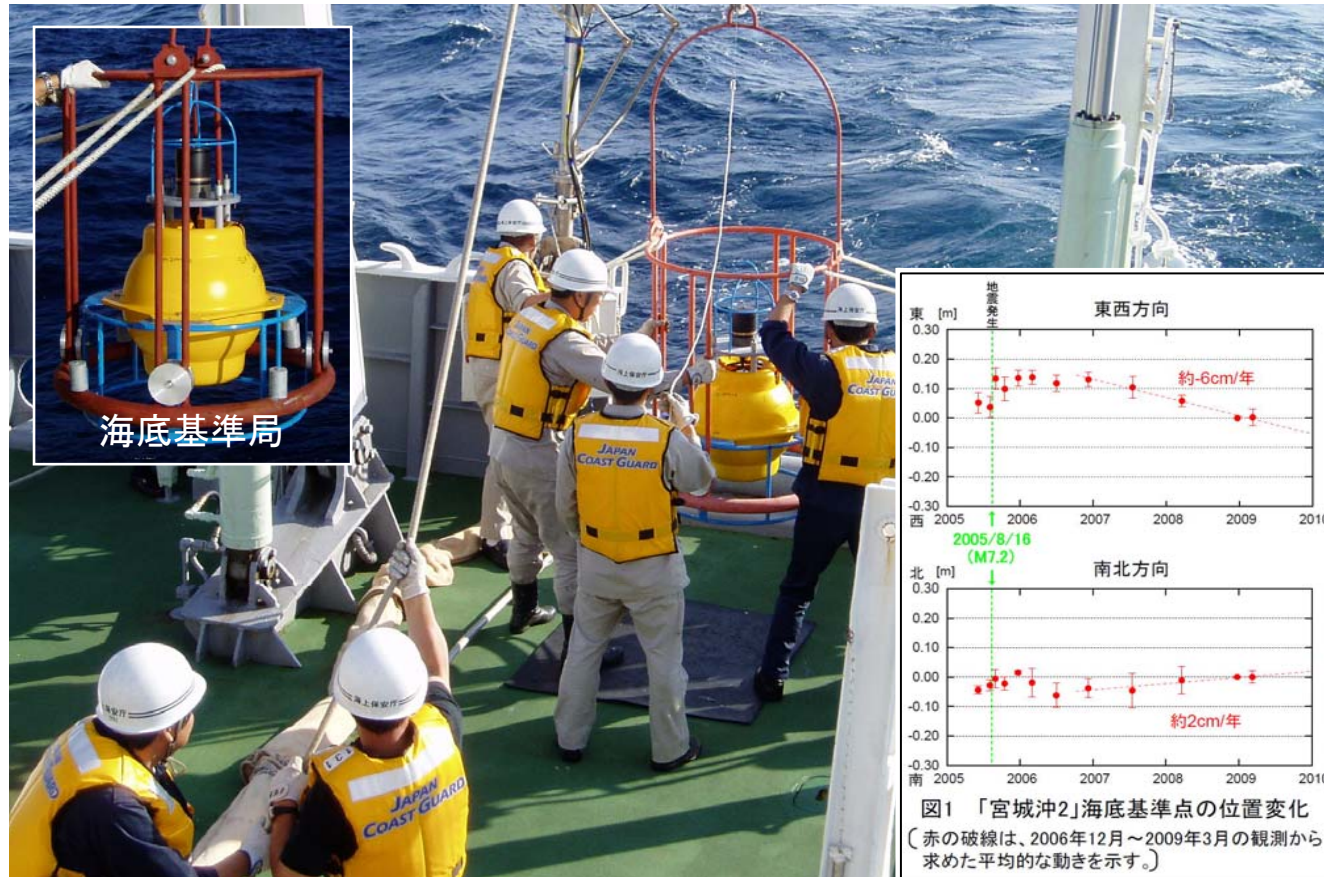


1. 世界初! 地震後のひずみの解消から蓄積開始に至る動きを捉えた



5月11日、海上保安庁海洋情報部は、測量船の海底地殻変動観測により、2005年8月に宮城県沖で発生した地震の前後に震源至近海底の基準点で位置の変化を検出、その後の継続調査によって、2007年頃から年間6.5cmの一定の速さで西北西に動いていることが判明し、これを公表しました。これら地殻のひずみの蓄積が地震により解消し、1年程度の移行期間を経て、再び蓄積を開始するという一連の過程を海底の動きとして捉えたのは世界で初めてで、今後の宮城県沖地震の場所や大きさの予測に役立つと期待されます。

2. 炎上漁船消火 釧路沖



5月12日、釧路港南南東約23.7km海上において、小型さけ・ます流し網漁船から火災が発生し、根室漁業無線局から、根室海上保安部に救助要請がありました。第一管区海上保安本部では、巡視船及び航空機を現場へ急行させ、到着した釧路海上保安本部所属の巡視船「えりも」により、漁船の消火作業を行いました。なお、漁船の乗組員7名については、付近の僚船に全員救助され無事が確認されています。

○かいほニュースは海上保安庁ホームページでご覧いただけます。
<http://www.kaiho.mlit.go.jp/info/kaihonews/index.html>

海上保安庁 〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-3
03-3591-6361 (代表)

(編集・企画) 海上保安庁総務部政務課 政策評価広報室

海の「もしも」は**118番**

